

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	一般社団法人つばさ 西那須野事業所		
○保護者評価実施期間	令和7年1月31日		～ 令和7年2月28日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	47	(回答者数) 18
○従業者評価実施期間	令和7年1月31日		～ 令和7年1月28日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6	(回答者数) 6
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年3月6日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	療育活動プログラムは、遊びを通して楽しく取り組める内容になっており、子どもたちが主体的に活動している。	発達年齢に合わせたグループ療育をおこない、それぞれの発達に合った支援内容が提供できている。また、個別の専門指導により、その子の興味や良さを活かしながらより専門性のある指導をおこなっている。	さまざまな手法を用い目標にアプローチするとともに、子ども自身の気づき、考える力を育めるよう主体的な活動の場を増やしていく。
2	面談により、本人・保護者の状況やニーズを把握し、個別支援計画に反映している。	作成した個別支援計画においては、その手立てや専門的支援での役割を理解しながら統一した支援を実施できるようにしている。また、いつでも相談しやすい環境をつくり、初期の段階で問題に対処できるようにしている。	療育参加などにより、支援の場を直接体験する機会を増やし、子育ての楽しさや充実感を味わいながら個別支援計画の目標について一緒に取り組んでいけるようにする。
3	保育園等との連携を図りながら、子ども中心の支援をおこなっている。	担当者会議等において課題や情報の共有をおこない、それぞれの役割を理解しながら統一した支援を実施できるようにしている。また、低年齢児が併用する際には、生活リズムに配慮し臨機応変に対応している。	関係機関との連携を密にし、家庭背景を踏まえた上で、その時々の子どもの状態に応じた対応をしていく。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	地域の園や保育所の子どもたちと交流する機会が少ない。	コロナ禍以降、他園と交流する機会が減り、現在においても感染症の拡大を懸念し交流を控える傾向にある。	散歩や公園外出など、屋外での活動により、地域の方や他園の子どもとの交流の機会を増やす。
2	保護者の学びのプログラムや父母会の開催が少ない。	モニタリングや相談の中での個別サポートや、行事での保護者間交流はおこなえているが、感染症への配慮から父母会などの開催に躊躇がある。	感染対策に十分配慮しながら、茶話会やペアレント・トレーニングなどの家族支援をおこなっていく。
3	支援の振り返りをおこない、課題の共有と対策を徹底すること。	短時間勤務の職員や午後の療育支援などにより、全員で振り返りをする時間の確保が難しい。	翌日の朝のミーティングにおいて、前日振り返りの時間を十分に確保し、全員が共通理解を持ちながら統一した支援がおこなえるようにする。